

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200296		
法人名	医療法人 雅紀会		
事業所名	グループホーム さくら		
所在地	福岡県飯塚市秋松709番地11		
自己評価作成日	平成23年6月20日	ユニット名	A棟

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年7月5日	評価結果確定日	平成23年8月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・落ち着いた雰囲気の中で、入居者と職員が穏やかに入居生活が過ごせる様に行動・言動に配慮している。</p> <p>・入居者の出来る事を増やせる様に過剰な介護は避け、見守る支援を心がけている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>遠賀川沿いの静かな場所に位置する平屋建て2ユニットの事業所である。門扉より玄関までは一面の芝生で広々としており、室内は採光良く明るい。共有空間は、十分な広さ、動線が確保され、入居者がゆったりと過ごせるよう配慮されている。居室は和室と洋室の2タイプがあり、各室にはトイレ・洗面所が完備されている。独自に作成された理念は、「心身の痛みの緩和」、「心の癒し」を重視しながら、一人ひとりの「普通の生活」を支援するというもので、項目ごとに具体的に方針が明記されており、そこに込められた気概と真摯な姿勢を感じる。勤務年数の長い職員が多く、入居者との間で、馴染みの関係が築かれている。職員は、入居者一人ひとりが日々の暮らしの中で、自身の役割を担いながら、生きがいを感じ、ゆったりと思い思いの過ごし方が出来るよう、様々なアプローチを誠実に試みている。実際に、近くの大型スーパーの花壇作りを始め、ペットボトルキャップの回収等、一人ひとりの力が、地域の中で発揮出来る環境作りを行うとともに、入居者が家族と一緒に温泉旅行に出かける等の支援がなされている。</p>

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・終礼・ミーティング等で理念の共有化に向けての話し合いの場を設けたり、毎朝唱和する事で念頭に置いている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作り上げている。その内容は、「心身の痛みや緩和」、「心の癒し」を重視しながら、一人ひとりの「普通の生活」を支援するというもので、項目ごとに具体的に方針が明記されている。事業所内の掲示や毎朝の唱和により、職員間での確認と共有に努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣施設との合同行事や誕生日会・ボランティアの参加を行っている。	入居者と共に、地域の草取りを始め、スーパーの花壇作り、ペットボトルキャップ回収を行う等の協力関係を築いている。また中学・高校生のボランティアを受け入れる等、日常的、積極的に地域との交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生・ボランティアの受け入れ・見学等にて入居者の状況を理解して頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて議題として提供し、意見を頂き、サービスの向上に繋げている。	2ヶ月に1度、包括支援センター職員、福祉協力員、家族、利用者の参加で開催している。活動状況の報告や、事例の紹介と検討を行う等、異なる立場からの意見交換を行いながら、積極的に意見を取り入れ、更なるサービス向上につなげている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問に思ったり、相談事は市町村の方に尋ねる等して連携に繋げている。	疑問解消や相談等、機会あるごとに介護保険課窓口で連絡を取る等、日常的に連携を図っている。またその都度記録を残し、職員間で情報を共有しながら、運営に反映させている。最近では、東日本大震災時の空室情報の提供や、医療福祉従事者派遣協力の問い合わせ等を行い、積極的に協力関係の構築に努めた。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしていないが、安全面の確保の為、門扉の施錠を行い、インターフォンで対応している。	身体拘束について、職員は、マニュアルの作成や勉強会の実施等、身体拘束について、禁止の対象となる具体的な行為について、理解を深めながら、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて理解を深め、言葉使いにも注意している。		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にて学び理解を深めているが、対象者はいない。	現在、制度利用者はいないが、職員は、その意義、及び必要性を理解し、外部研修の参加や勉強会の実施、関係資料を閲覧し易い場所へ完備する等、いつでも活用出来るように努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み書の記入時・契約書等にサインを頂く時に説明し、理解・納得を得ている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明・苦情箱の設置・利用・家族会で尋ねている。	家族会を年2回実施している。参加者も多く、忌憚ない意見が出されている。また月1回、事業所便りを発行し、情報発信を行うとともに、家族の来訪・面会時等を利用し、コミュニケーションを図りながら、意見や要望を出しやすい雰囲気作りに努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の採用・入居者の決定には職員の意見が取り入れられている。 サービス担当者会議・ミーティング等では意見交換している。	毎月の運営会議を始め、朝礼、随時のミーティングを通して、職員の意見や提案を吸い上げ、運営に反映させている。また外部研修への参加、及び内部研修の実施を通して、職員間で情報を共有しながら、出された意見・提案を積極的に活用するよう努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営推進会議での内容を、毎月報告し、昇給・研修の励行等の職場環境整備に繋がっている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	各年代の方々が継続し、勤務されている。 誕生日会や行事等では、職員の特技や「能力を発揮して頂いている。	募集・採用にあたり、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。実際、男女幅の広い年代の職員が勤務しており、勤続年数の長い職員も多く、常勤として採用し、福利厚生も充実している為、離職者も少ない。管理者は、各々の希望や能力に合った研修を勧める等、社会参加や自己実現の権利の保障に努めている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修で継続的に知識を学び実践に活かしている。	人権や権利擁護に関する研修を年間計画の中に位置づけ、複数回実施している。また外部研修を活用し、事業所内での報告・伝達と、内容の周知、及び再確認を行う等、教育・啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各々の能力に合わせた指導法を見際めると共に内部・外部研修を促している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣施設職員と時間を調整し、運営及び悩み事などの相談を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々人の置かれている環境を考慮しながら、訴えを傾聴している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があれば話し合いを行い入居の可否を決めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々なサービスも視野に入れた話し合いを行い納得されたサービスの提供をおこなっている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々人に合った援助方法を見つけ一緒に行っている。職員は入居者の方々からもたくさんのお話を学んでいる。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の便りの発行に次月の月行事・誕生日会等の案内を載せて協力を促している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室の継続。外出・外泊は家族の協力を御願ひし支援に繋げている。	家族・友人の来訪や、外出の機会の創出に努めている。実際、家族の面会は多く、連れ立って温泉に行く等の機会も生まれている。また行きつけの美容院の利用等、家族と職員で協力し、馴染みの関係が途切れない支援を行っている。	

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	趣味や話が合いそうな方・顔見知りの方々が 同席出来る様に配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々連絡を入れている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	個々人の意向を尊重し、様々な時間を楽し める様に支援すると共に困難な場合も何度 も話し合ったりしている。	一人ひとりの時間を大事にしながら、折に触 れ、生活歴や趣味について傾聴し、また日常の 何気ない表情や仕草を観察する中で、本人の思 いや意向の把握に努めている。意思疎通困難な 場合は、家族等の助言を受け、本人本位に検討 している。	より本人本位の支援の観点から、これ までのかかわりの中から把握出来た生 活歴や趣味等、「その人らしさ」を、職員 間で共有出来るような書面化を期待した い。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前の相談時に本人・家族・ケアマネより 情報収集すると共に現状や移行の把握に 努め又、入居後も継続し把握に努めてい る。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや声かけにて状態 観察し、個々人の把握に繋げている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ケアチェック表・サービス担当者会議を通じ て本人、家族の希望、課題をプラン作成に 努めている。	担当者会議を通じて、3ヶ月ごとのケアチェック 表を基に、本人や家族、関係者の意見を参考に しながら、現状に即した計画を作成している。見 直しについても、定期的、及び状態変化に 応じて行ない、変化の見られない場合 であっても、再度検討する等、真摯に 取り組んでいる。記録物の内容から、 細やかな状態把握に努めていること がうかがえる。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテに日々の状態を記入し、急変時 には申し送り伝達ノートを活用し情報の共有 に努めている。		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を取り入れプラン等の修正・追加を行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや近隣消防署からの避難訓練の指導・助言を頂き、安全面への強化に繋げている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	1回/Mの定期受診の励行。異常時はその都度受診し、支持を仰いでいる。	かかりつけ医については、本人、家族の希望を尊重している。受診については、家族と職員が協力しながら行っている。定期的な往診体制はないが、緊急時や状態変化等は、迅速かつ柔軟に対応している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護・介護職は連携を図り、異常時の病院受診へと繋げている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も定期的に見舞い状態把握に努め、主治医からの状況説明の際にも積極的に参加している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですでできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の指示を仰ぎながら介護を行い、状態に合わせて検討し、変更を共有していく。	重度化、及び終末期については、指針を作成し、入居の際、説明を行っている。特に終末期については、本人・家族の意思確認や、話し合いを尊重し、一人ひとりの思いを尊重した支援に努めるよう職員間で方針が共有されている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成及び内部研修にて実施訓練を行っている。		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施及び近隣施設との連携により協力体制を図っている。	年2回、消火・避難・通報・夜間想定訓練を実施している。訓練後は検証を行い、課題を明確にする等、意欲的に取り組んでいる。スプリンクラーの設置(昨年度完了)や、室内各コーナーにふた付き消火用バケツを設置する等、平素から対策が図られている。近くに民家が少ないことから、両隣の高齢者福祉施設との協力関係の構築を計画中であった。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	様々な場所でのプライバシーの確保と個別記録等は鍵付き書庫での保管とコミュニケーション時には敬語での対応を行っている。	年間研修計画に位置付け、実施し、職員間で理解の深まりと周知に努めている。日常の暮らしの場面で、入居者を入浴や排泄を始めとする支援の受容者として位置づけるのではなく、生活歴や経験等を活かした役割の担い手として捉え、一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。言葉掛けについても、敬語と方言を柔軟に使い分けながら、本人の尊厳に配慮しながら、伝わり易いコミュニケーションを心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、本人の意向を尋ね、自己決定の支援に繋げ、意向に添えない場合は説明し、納得を得ている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々人の日常生活パターンを把握した上で、その都度意向を尋ねながら支援に繋げている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室訪問理髪店を希望時利用していただいたり、ショッピングにて希望商品を購入して頂いている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みの物を取り入れ、個々人の状況に合わせて片付けや事前準備を一緒に行っている。	母体法人の管理栄養士が献立を作成している。入居者の嗜好や、旬の食材を利用した季節感のある献立作りを行うとともに、お楽しみ会等のイベント時には、クレープやケーキ、たこ焼き等を提供し、少しでも食事が楽しめよう配慮している。準備・片付け等については、入居者も出来る範囲で役割を担っている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作る献立を使用し、食事摂取量の把握を行い、必要時は経口栄養補助食品も使用している。		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや、義歯の洗浄を行っている。又、個々人の状況に合わせて歯科受診も行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導及び表情・態度・言動等により、声かけを行い排泄支援に繋がっている。	排泄チェックシート等を活用しながら、一人ひとりのパターンや習慣を把握し、誘導や言葉掛けにより、各自の状態に応じた支援に努めている。各居室には、トイレが設置しており、排泄の自立支援の一助となっている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートを活用。排便チェックを行い、食材の工夫や適度な運動・水分摂取及び内服薬にて排便コントロールに繋がっている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル測定・状態観察にて入浴を勧めるが、本人の意向を尋ねながら、入浴支援をおこなっている。	基本的には、週3回の入浴を実施している。一人ひとりの体調や意向、季節に応じて、臨機応変に対応しており、必要に応じて随時入浴出来る体制が取られている。石鹸やシャンプー等については、各自好みのものを使用する等、プライバシーを尊重しながら、ゆったりとくつろげる支援に努めている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、出来るだけ活動の時間を作っているが、個々人の状態に合わせて、休息を取り入れている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ノート、カルテ記録、処方箋を活用し、目的、副作用を把握して服薬支援を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の好きな事、特いな事を把握し、日常生活の中で行える様に支援している。		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>状態、天候にもよるが、散歩、ショッピング、ドライブへの声かけを行っている。</p>	<p>本人の希望を踏まえ、その日の体調や天候を加味しながら、散歩や買物、ドライブに出掛けている。実際に、「ショッピング記録」から、近くの大型スーパーで買物している様子が確認出来る。また家族の協力を得ながら、温泉等、平素は行けない場所への外出支援を行っている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人、家族の意向を取り入れながら、買い物の際に個人々に合った支援をし、買い物代行も行っている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望される場合は、家族の了解の上で支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>快適に過ごせる様に、光や音等に配慮し、台所から食事の匂いがしたり、テーブルに四季折々の花を飾ったりしている。</p>	<p>吹き抜け天井の居間兼食堂は明るく、広々としている。大きな食卓テーブルやソファーが配されながらも、車椅子での移動には支障がない、十分なスペースが確保されている。また和室や、日光浴が楽しめる芝生の中庭を設ける等、一人ひとりがゆったりくつろいだり、思い思いの過ごし方が出来る空間の確保もなされている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールにはテレビ、ソファーを設置。畳のスペースもあり、自由に過ごす事が出来る。中庭には、ベンチもあり、散歩中の休息に使用されている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅で使用されていた(家具、寝具)なじみの物を持ち込まれたり、写真等を飾られている。</p>	<p>和室と洋室の2タイプがあり、各室にはトイレ・洗面所が完備されている。床面より取られた窓は採光良く、芝生の庭からの心地良い風が取り込めるよう工夫されている。室内には、一人ひとりの好みの物や使い慣れた馴染みの調度品等が持ち込まれており、本人本位の居室作りがなされていることがうかがえる。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>共同の場所への表示を掲示し、ホール内はカーペットを使用。廊下、居室内はクッション性のあるフローリング。手すりも設置している。</p>		